

独立行政法人国際協力機構理事長賞

「学校給食」がつくる未来 ～社会課題への関心と行動をつなげる～

恵泉女学園中学校 3年 高嶋 凜乃

「学校給食は私の国が発展するために必要不可欠です。」

多数の国から中学生が参加したグローバルプログラムで、ネパールからの参加者の発言が心に残った。各国の参加者が自国の昼食事情を紹介する中で、その意見には特別な重みがあった。ネパールでは貧困、教育、児童労働等の社会課題解決策として政府が学校給食の導入を進めているそうだ。私は学校給食が国の発展や複数の社会課題解決にどうつながるのか気になり調べることにした。

国際機関の調査データを見ると、ネパールは子どもの栄養不良率が高く、児童労働に従事する子どもの多さが目立つ。ネパールの学校給食の仕組みは、国際機関等と政府が連携して作り上げたもので、各国の過去事例からの学びを活かし、学校給食への協力者を増やしながらか活動を継続することで、就学率を向上させてきた。学校給食は「子どもの栄養摂取を支えつつ教育を受けやすくする仕組み」であり、「子どもを児童労働から引き離し、将来高収入を得る手段を取得させる仕組み」でもある。政府は学校給食を地域農業の発展や就労機会の創出等に連携させる政策も進めている。ネパールの状況を学び、あの発言の重みの理由を少し理解できたように思う。

学校給食の持つ力や可能性を学ぶと、自分にできることを実践したくなった。まずは買い物の際「レッドカップマーク付き」の商品を買

うようにした。このマークの付いた商品を買うと売上の一部が開発途上国の給食支援に寄付される。そしてこの取り組みをより多くの人に知ってもらえるよう家族や友人に紹介した。次に小遣いの一部を毎月、開発途上国の学校給食を支援するNPOへ寄付した。寄付金の使われ方を確認するようになり支援活動に詳しくなった。また10月から始まる「おにぎりアクション」へ参加する。これはおにぎりの写真をSNSに投稿すると開発途上国に給食をプレゼントできるもので、友人達と「自慢のおにぎり」を投稿する準備を進めている。

自分にできることを実践してみると、今すぐ始められる社会課題解決を支援する仕組みが身近に多数存在すること、またその仕組みには楽しみながら継続できる工夫があることに気づいた。その工夫には、多くの人からアイデアを募ったり、他国の事例を応用したりすることでより多くの参加者を得ているものも多い。私達は、私達の持つ知恵や経験を世界中で共有し、それらを活用した行動を継続することで、様々な社会課題に対する解決方法を見つけられるのではないだろうか？人々の関心と行動が「学校給食」という社会課題解決の方法を生み出したように、私達が社会課題への関心を持ち続け、その解決に向けた行動を未来へつないでいくことで、より豊かで幸せな社会を実現できるのではないかと考えている。